識別番号　Ｐ６

研究課題　ナショナリズム復興のなかの文化遺産　－アジア、アフリカのアイデンティティ再構築の比較－

Cultural Heritage in the Revival of Nationalism: A Comparative Study of the Reconstruction of Identity between Asia and Africa

研究代表者　私市正年（アジア文化研究所）

共同研究者　赤堀雅幸、シリル・ヴェリヤト、川島緑、小牧昌平、寺田勇文、根本敬、福武慎太郎、丸井雅子（以上、アジア文化研究所）

Summary

Purpose of the Research:

Today, cultural nationalism in several nations is undergoing a revival, as a reaction to the economic surge of globalization. The aim of our research is study the treatment that cultural heritage is accorded in diverse states of Asia and Africa, and to see what new significance and values are attributed to their heritage by the respective nations. Our research hinges on the following two issues.

1. Since the 1990s, when economic globalization rose to prominence, in what way was cultural heritage used as a symbol or link to nationalistic education.

2. What are the problems or special features involved in the means used to protect cultural heritage, with regard to the rebuilding of national identity in the diverse nations of the world.

Characteristics of the Research:

In our research, we seek to clarify the following points. In this age of rapid economic globalization, the nations of Asia and Africa have appeared on the scene in a greatly transformed manner. Our intention is to surpass the research that has so far been conducted regarding the protection of cultural heritage, to see how the nationalism of those nations is linked to their cultural heritage, and to explore the attendant problems.

By focusing upon and adopting as a model Angkor Wat in Cambodia, which has been the target of our research these many years, we intend by means of group research to tackle from a comparative perspective diverse contentious issues, even extending our vision to the nations of Asia and Africa. This is perhaps our primary effort at verification utilizing group research.

１．本研究の目的

本研究は、学術研究振興資金から 2009 年度－2010 年度の 2 年間にわたって助成を受け、実施されている共同研究プロジェクトである。

本研究会課題の目的は、経済面でのグローバル化が進行することへの反動として文化的な

ナショナリズムが多くの国々で復興する現代において、アジア・アフリカ諸国の文化遺産がどのように扱われ、いかなる新しい意味や価値を国家によって付与されているのか再検討することである。研究の主軸は次の 2 点である。①　経済のグローバル化が議論されるようになった 1990 年代以降、文化遺産が各国のナショナリズムの表象や愛国教育の一環としてどのように利用されているのか。②　文化遺産の保護の在り方が各国のアイデンティティ再構築との関連においてどのような特徴と問題点を有しているのか

２．研究の特徴

従来のナショナリズムと文化遺産保護に関わる研究を超え、経済のグローバル化という時代の大きな流れの中で、あらたに姿を変えて登場したアジア・アフリカ諸国のナショナリズムと、それぞれの国家の文化遺産保護が、どのように関連づけられ、そこにいかなる問題が包含されているのかを明らかにする。これまで本研究所が主体となって進めてきたアンコール（カンボジア）を中心とした調査と研究をモデルとしつつも、論点を絞り込み、比較の視点を導入して地域をカンボジア一国からアジア・アフリカの複数の国々に広げ、共同研究を進めていく。共同研究という取り組み方で検証していく点において最初のこころみであるといえる。研究分担者の専門分野を活かし、方法論としては考古学、歴史、宗教、人類学、政治学などを活用し、現地調査及び一次史料調査を活かした比較の視点にもとづく、本研究所ならではの共同研究である。

３．役割分担と研究計画

(1)　研究の役割分担は次の通りである。

【研究代表者】

私市　研究総括／分担地域：アフリカ及びアラブ地域、特にアルジェリア

【研究分担者】

赤堀　分担地域：アフリカ及び中東地域、特にエジプト

ヴェリヤト　分担地域：南アジア、特にインド

川島　分担地域：東南アジア島嶼部、特にフィリピン

小牧　分担地域：内陸アジア、特にイラン

寺田　分担地域：東南アジア島嶼部、特にフィリピン

根本　分担地域：東南アジア大陸部、特にビルマ

福武　分担地域：東南アジア島嶼部、特にインドネシア及び東ティモール

丸井　分担地域：東南アジア大陸部、特にカンボジア

(2)　本研究は、次の 3 つを主な研究活動とする。

基礎資料収集、現地調査実施、および地域を横断したテーマ理解のための研究会開催。

４．研究活動（2009 年度）

(1)　研究会等開催

①**計画会議**　2回：2010年11月6日（於上智大学）、2010年2月10日（於上智大学）

研究報告会兼計画会議　1回：2010年3月28日-29日（於上智大学湘南ハイム）研究代表者・研究分担者による2009年度活動報告および2010年度研究計画会議

②研究会 3 回、講演会 1 回

［研究会］

-2009年6月24日（於上智大学）

講師 田代亜紀子（東京文化財研究所）「タイにおける文化遺産保護政策とアイデンティティ」

-2010年2月1日（於上智大学）

Theme: Cultural Heritage and Nationalism, Masatoshi KISAICHI, “Cultural Heritage in the days of the Resurgence of Nationalism: a case of Japan”, Masako MARUI, “Cultural Heritage at border region in case of Thai and Cambodia”, Mariko IKEGAMI (Sophia University), “*Preah Vihear* temple and Khmer people”. Comment by Neil SILBERMAN (University of Massachusetts)

-2010年3月27日（於上智大学）

講師 Habib KAZDAGHLI (Tunis-Manouba University), “L’histoire du tourisme Durant la periode coloniale et des grandes etapes du nationalisme tunisien”

［講演会］

-2010年1月27日（於上智大学）

講師 Neil SILBERMAN (University of Massachusetts), “The Tyranny of Narrative : History, Heritage, and Hatred in a Globalized and Tribalized World”

(2) 海外調査

①東南アジア地域　丸井雅子/カンボジア/2010年3月2日～3月10日、寺田勇文/フィリピン/2010年3月12日～3月17日、福武慎太郎/インドネシア/2010年3月17日～3月23日、川島緑/フィリピン/2010年3月16日～3月27日

②南アジア地域　シリル・ヴェリヤト/インド/2010年2月19日～3月10日

③中東・アフリカ地域　私市正年/フランス/2009年10月29日～11月4日、/モロッコ及アルジェリア/2010年2月18日～3月6日、赤堀雅幸/エジプト/2010年2月27日～3月7日

(3) 基礎資料作成

文化遺産研究叢書（Laurajane Smith ed., “Cultural Heritage”, 1-4, 2007 Routledge）の購入、近年の同分野研究論文目録作成、関連新聞記事収集、欧文論文等翻訳等を進めた。

(4) 成果

初年度は、本研究課題のテーマである現代におけるナショナリズム復興を理解するための前提となる各地域の歴史的経過に関わる資料収集、論文購読、及び研究会を開催した。その結果、研究対象地域においては、特に19世紀後半以降のヨーロッパ進出の過程で、新しい概念として誕生しつつあった文化財や文化遺産という概念が、植民地政府側に政治的に利用された経緯とその特徴を地域ごとに明らかにすることができた（＝第一のステージ）。さらに、近代国家成立の過程で文化遺産が再び注目されることになる（＝第二のステージ）。我々が本研究課題で主題として掲げる「ナショナリズム復興」は、まさに文化遺産と国家が関わる第三のステージであると位置づけることができた。以上が初年度の資料収集と分析の結果であり、これらを踏まえて次年度の研究会および国際シンポジウムの論点を絞っていく。

５．研究の反省・考察

(1) 研究会等について

2009年度は、各地域の文化遺産を巡る保存政策・活用の現状に関わる事例について調査を

実施し、研究報告会等も開催した。しかし、ナショナリズムとの関連およびアイデンティティ再構築への議論は展開途中である。これを反省材料とし、以上の点を考慮しながら2010年度の研究会テーマの選別と講師招聘を検討する。また、2010年11月に国際シンポジウムを開催して議論を深めるため、シンポジウムに備えた予備的セミナーおよびワークショップ等を開催する。

(2)　海外調査について

2009年度は、海外調査実施が年度後半に集中した。研究代表者・研究分担者がそれぞれ授業および学務を抱えている事情を考慮しても、なお改善できる点はある。2010年度は、早い実施が望まれ、研究計画会議で相互に確認した。

６．最終年度（2010 年度）の活動

最終年度にあたる今年度は、これまでに研究会を 2 回開催した。また 11 月には国際シンポジウムを次の要領で開催予定である。年度末には研究論文を含む活動報告書を刊行すべく準備中である。

（1）研究会

-2010 年 7 月 3 日（於上智大学）9 時半～12 時半

講師　黒宮一太（京都文教大学）「ネイションとナショナリズム」

-2010 年 6 月 18 日（於上智大学）13 時半～15 時

講師　高木博志（京都大学人文科学研究所）「日本近代社会と文化財－史蹟名勝天然記念物を中心に－」

（2）国際シンポジウム（予定）

開催日時：2010 年 11 月 21 日（日）13 時半～17 時

題目「ナショナリズム復興のなかの文化遺産」